

令和7年
10月16日

第12回歯科医療提供体制等に関する検討会・第3回歯科医師の適切な配置等に関するワーキンググループ（合同開催）

参考人
提出資料4

支える人を 支える仕組みを

～地域障害者歯科医療の未来に向けて～

2025/10/16

日高 幸一 | 宮崎歯科福祉センター 診療部長



Contents

- 01 センターの紹介と現状
- 02 障害者歯科を取り巻く現状
- 03 課題とこれまでの取り組み
- 04 今後の課題
- 05 構成員からの事前質問



Contents

01

センターの紹介と現状

02

障害者歯科を取り巻く現状

03

課題とこれまでの取り組み

04

今後の課題

05

構成員からの事前質問



センター開設から23年の軌跡

患者のニーズに合わせて少しずつ、診療内容やサービスの充実を図ってきた

運営：宮崎市郡歯科医師会



日本障害者歯科学会臨床研修施設



日本歯科麻酔学会準臨床研修施設

2024年の診療実績

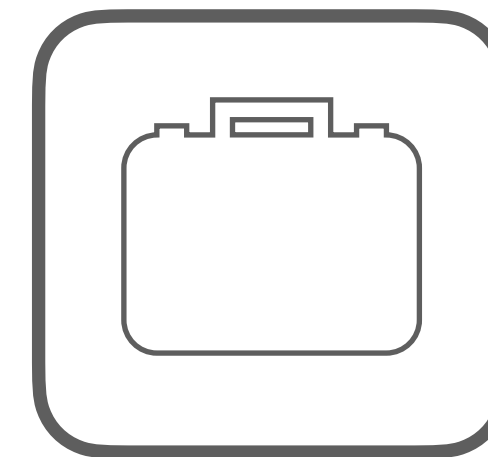
のべ患者数は過去最高、全麻症例数、鎮静症例数ともに前年を上回った

のべ患者数



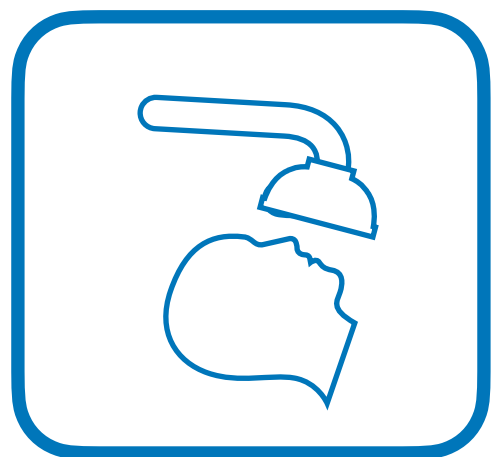
14,515人/年

訪問診療・周術期口腔機能管理



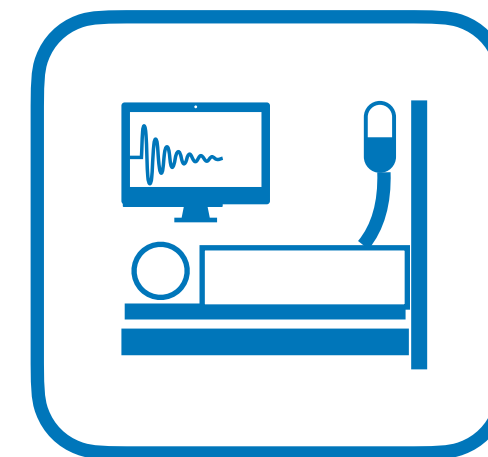
1,746人/年

全身麻酔下歯科治療



101症例/年

静脈内鎮静法下歯科治療

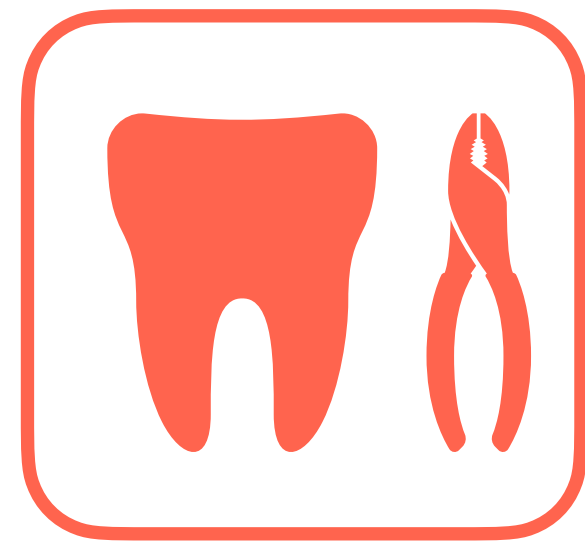


209症例/年

部門紹介

診療部を中心として、他3部門がそれをサポートする形で運営を行なっている

障害特性にあわせた歯科治療を提供します



障害者歯科診療室

- ・ 障がい児・者の歯科治療
- ・ 高齢者・有病者の歯科治療
- ・ 全身麻酔下治療
- ・ 静脈内鎮静法下治療
- ・ 摂食嚥下指導
- ・ 障害者歯科協力医養成
- ・ 学生実習

通院困難な方へ訪問診療を行っています



在宅歯科医療連携室

- ・ 在宅往診
- ・ 介護予防事業
(口腔機能向上)
- ・ 口腔ケア指導
- ・ 周術期口腔機能管理
- ・ 福祉車両運用管理業務

歯科相談、出前講座など歯科の情報を提供します



口腔保健支援センター

- ・ 歯と口の健康フェスティバル
- ・ 保育・幼稚園フッ化物洗口補助
- ・ 行政健診と歯科定期受診研修
- ・ 障害者施設巡回口腔ケア指導
- ・ 障害者施設健診
- ・ 在宅訪問アセスメント
- ・ 口腔ケア実践講習会
- ・ 医科歯科連携事業
- ・ 地域医療連携事業
- ・ 市民公開講座

診療支援のため人事・会計・事務を一手に担う

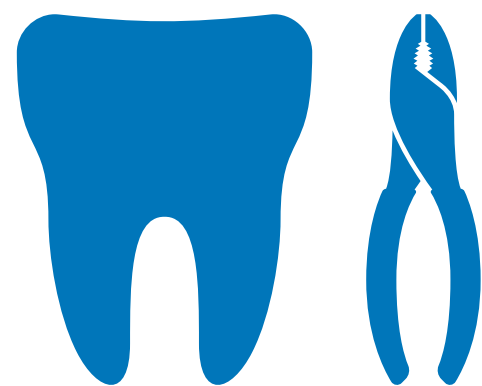


歯科医師会事務局

- ・ センター会計等財務管理
- ・ 各種委託事業管理
- ・ 会業務・事業運営
- ・ 災害対策本部
- ・ 職員労務管理

2025年スタッフ数

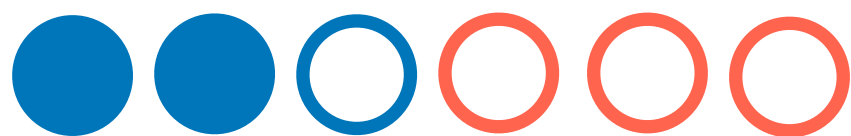
部門は分かれるが人員が不足する所に部門を超えてサポートする体制をとっている



26名

障害者歯科診療室

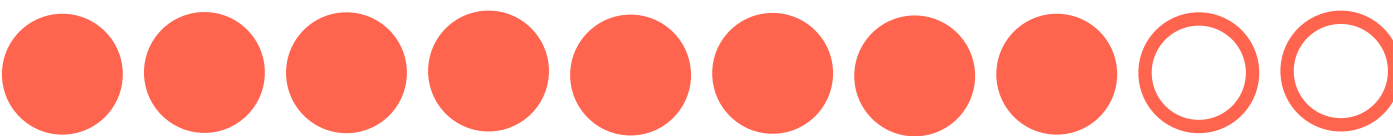
歯科医師 6名



歯科麻酔医 7名



歯科衛生士 10名



受付事務 3名



4名

在宅歯科医療連携室

歯科医師 1名



歯科衛生士 3名



● 男性常勤

○ 男性非常勤

● 女性常勤

○ 女性非常勤



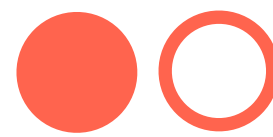
4名

口腔保健支援センター

歯科医師 1名



歯科衛生士 2名



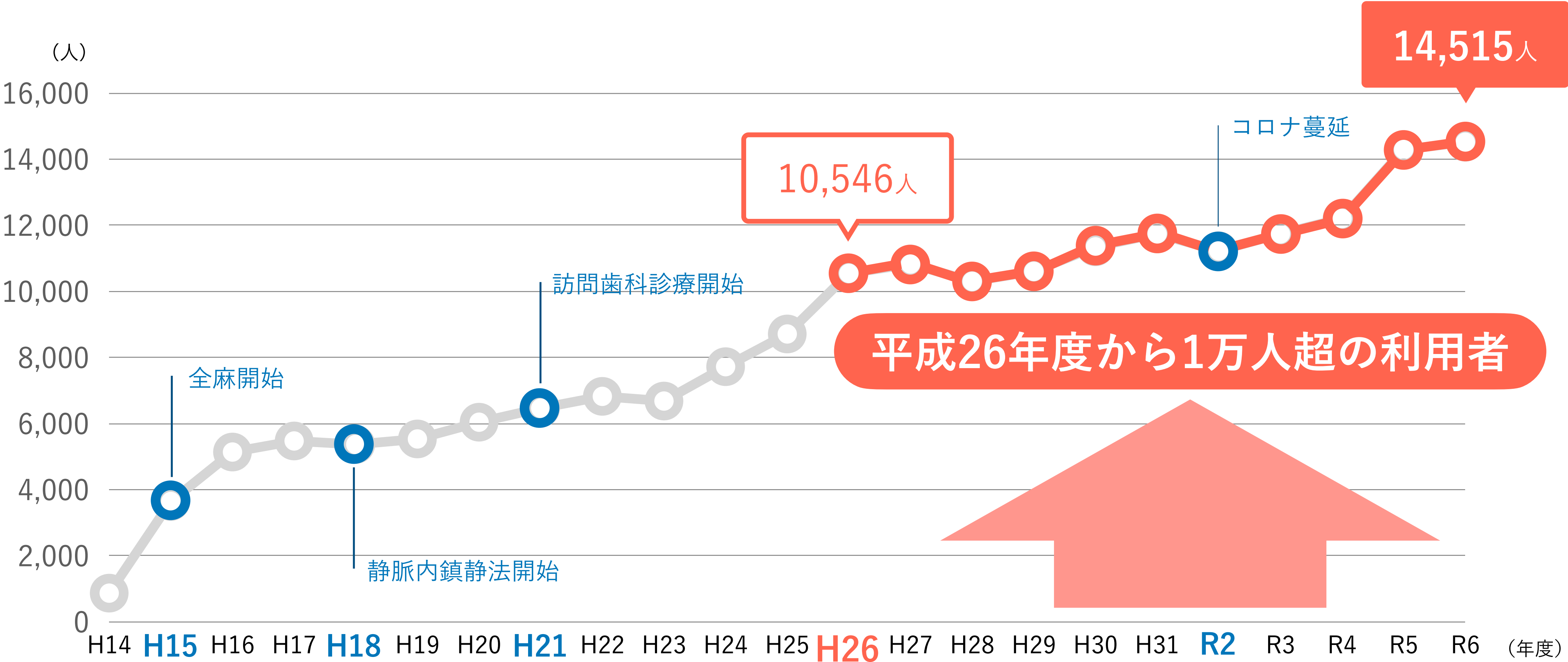
ドライバー 1名



計 34名

22年間の のべ患者数推移

1万人を超えてからも患者数は増加し続けている



Contents

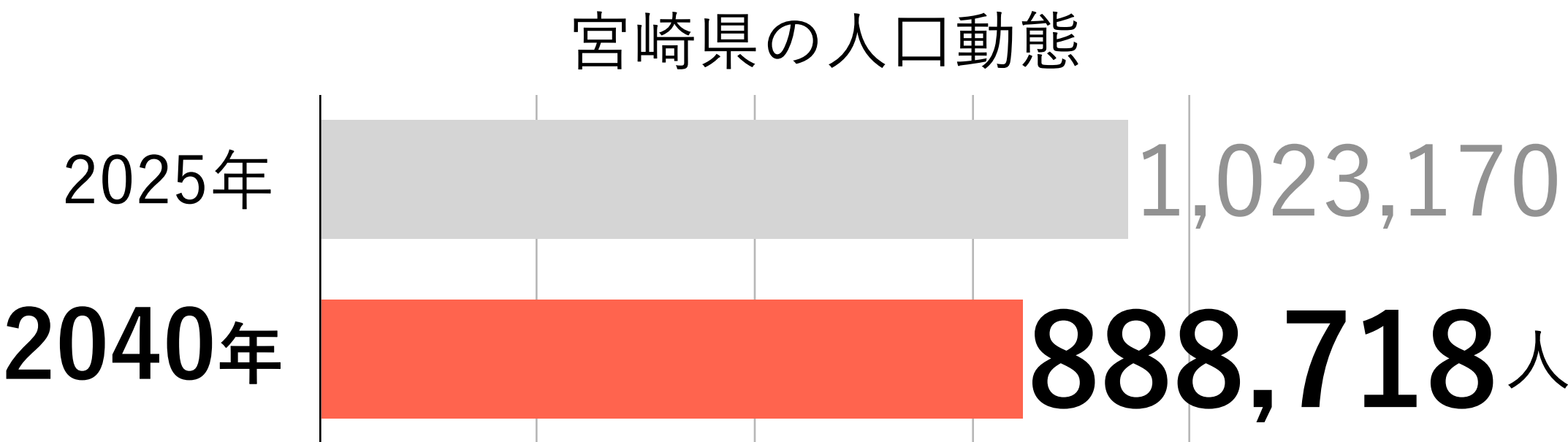
- 01 センターの紹介と現状
- 02 障害者歯科を取り巻く現状
- 03 課題とこれまでの取り組み
- 04 今後の課題
- 05 構成員からの事前質問



宮崎県の人口と歯科事情

少子高齢化と都市部への人材流出により、地域の歯科医院で後継者不在が深刻化

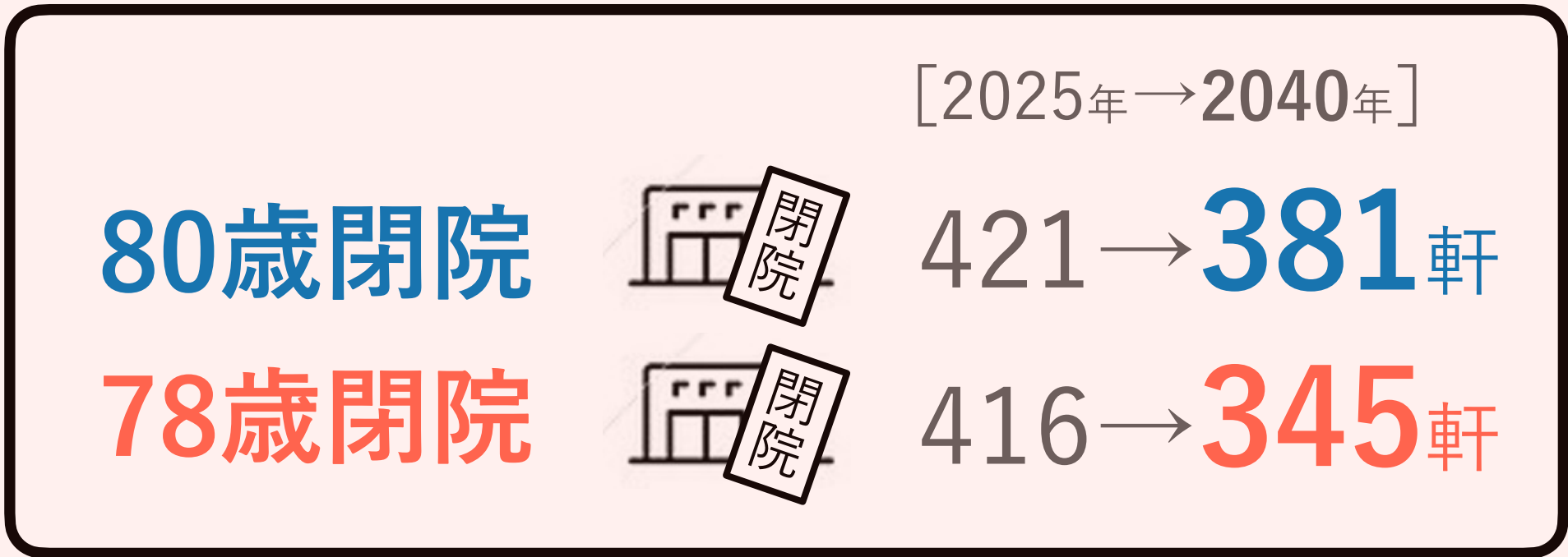
2040年 人口-13%減少



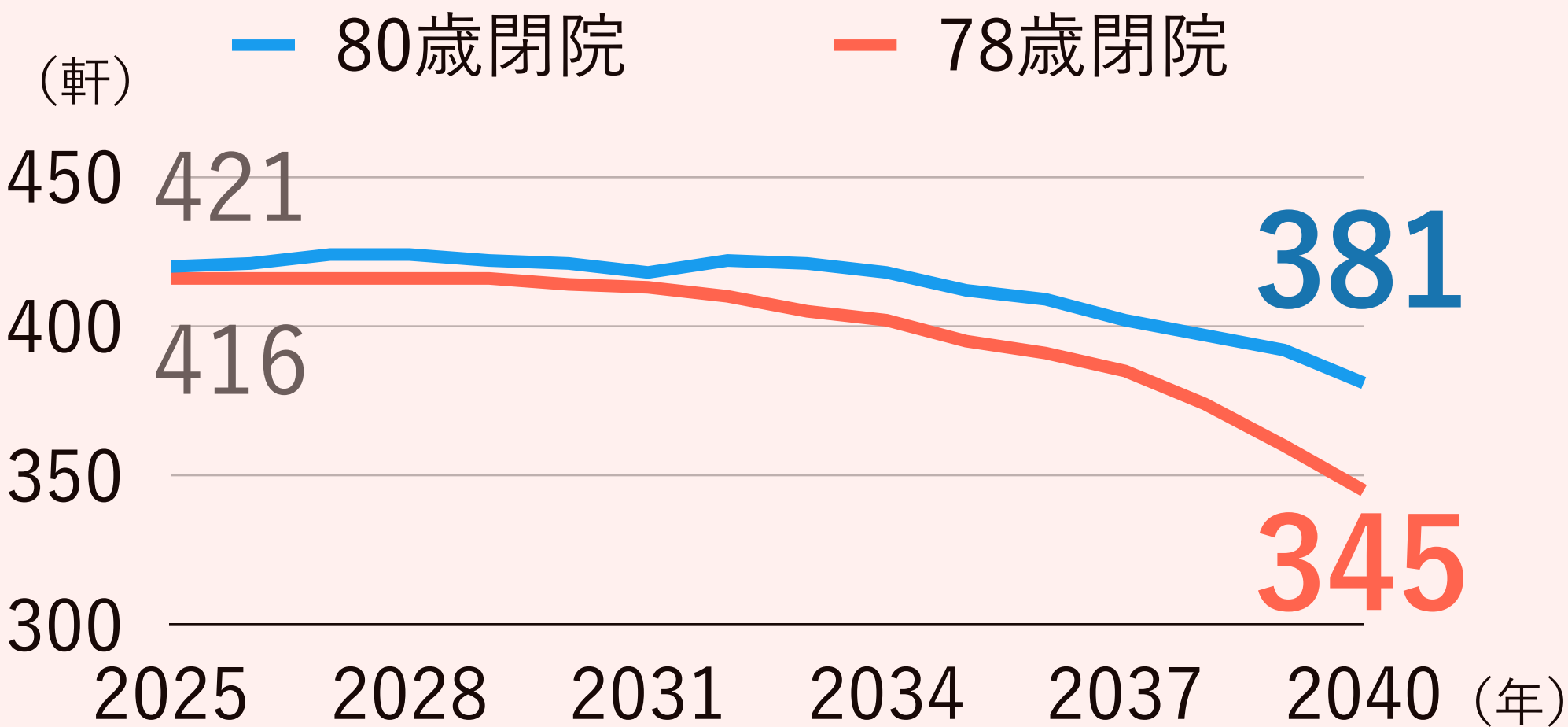
2040年 高齢者人口39%



出典：統計ダッシュボード/宮崎県の将来推計人口



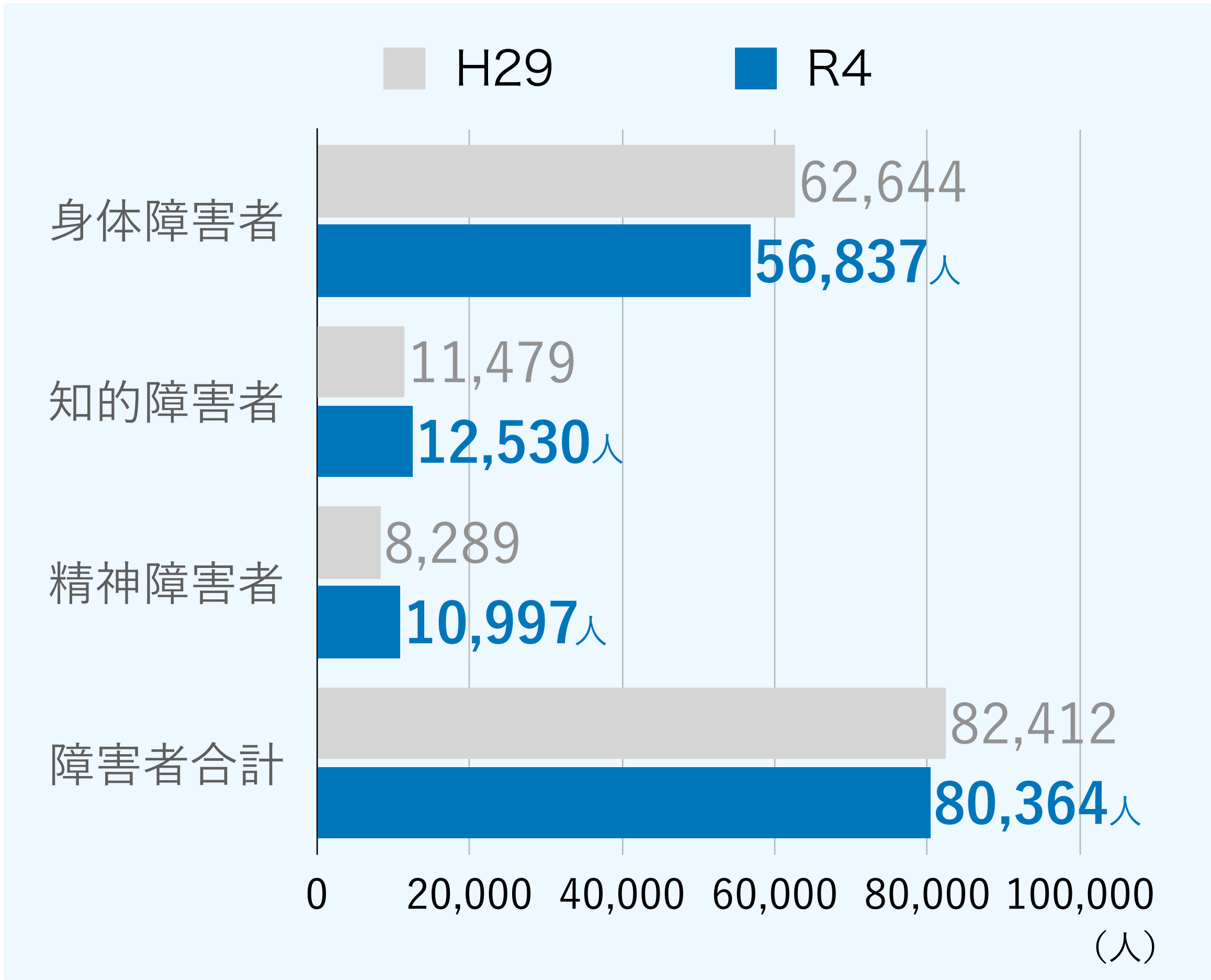
宮崎県の既存歯科医院数推移



出典：宮崎県歯科医師会

障害者数について

障害者合計は減少したが、知的、精神障害者が今後増加する傾向がみられた



出典：第5次宮崎県障がい者計画より抜粋

身体障害者**9.3%減**

少子化と周産期医療の発展

知的障害者**9.2%増**

診断基準の変化や高齢出産の影響

精神障害者**32.7%増**

社会構造の複雑化や社会的ストレスの影響

宮崎県の障害者歯科

3次医療機関に専門性はなく、センターに求められる役割は大きい

	医療機関名	専門性の有無と診療内容
1 次医療機関	一般歯科診療所 小児歯科専門医 (かかりつけ歯科医)	障害者に対して <u>専門性なし</u> 抜歯△，手術×，歯科治療○ 行動変容△，日帰り全麻× 鎮静法×，全身管理×
2 次医療機関	宮崎歯科福祉センター	障害者に対して <u>専門性あり</u> 抜歯△，手術×，歯科治療○ 行動変容○，日帰り全麻○ 鎮静法○，全身管理△
3 次医療機関	県立宮崎病院 宮崎大学歯科口腔外科	障害者に対して <u>専門性なし</u> 行動変容×，歯科治療× 入院全麻○，抜歯○，手術○
	他県歯科大学	障害者に対して <u>専門性あり</u>



Contents

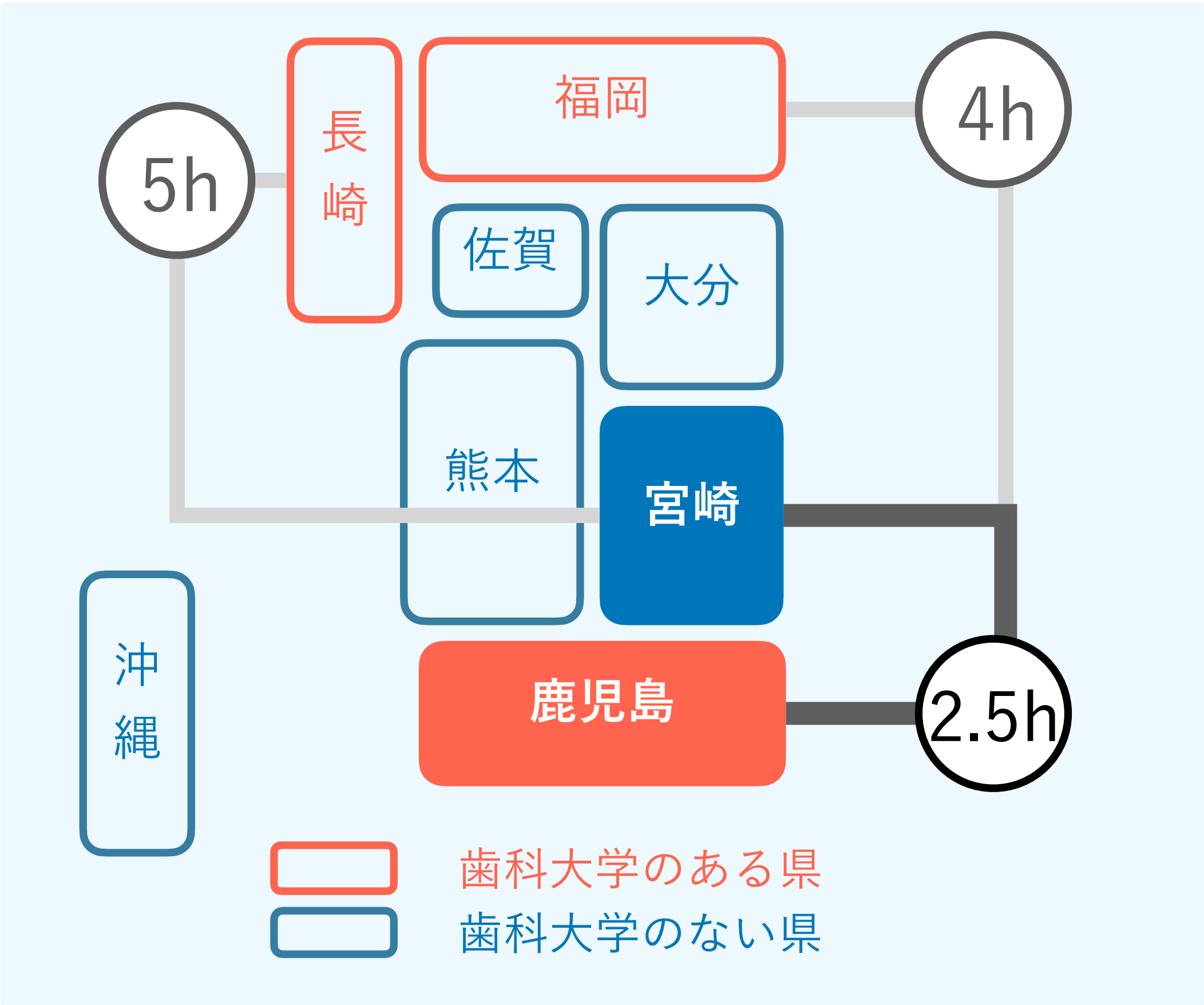
- 01 センターの紹介と現状
- 02 障害者歯科を取り巻く現状
- 03 課題とこれまでの取り組み**
- 04 今後の課題
- 05 構成員からの事前質問



歯科大学のない地域センターの完結モデル

隣県歯科大学との連携で治療完結と人材確保育成をはかる

宮崎市内から歯科大学までの高速アクセス状況



施設内完結モデル

一医療機関で治療を完結する

地域連携完結モデル

県内医療機関間で治療を完結する
県内は高速2時間以内でアクセス可能

広域連携完結モデル

他県との連携で治療の完結や人材を共有育成をめざす
隣県の歯科大学は高速2.5時間でアクセス可能

人材確保と診療における連携協力

大学や他医療機関との連携協力のおかげで質の高い医療を継続的に提供ができている

人材確保育成の連携



鹿児島大学小児歯科・歯科麻酔科

[若手ドクターの派遣協力]



北九州総合こども療育センター歯科

[麻酔指導医の派遣協力]

高度医療における連携



宮崎大学医学部
歯科口腔外科



宮崎県立宮崎病院
歯科口腔外科

[外科手術依頼]



宮崎生協病院小児科・内科

[全麻術前検査の協力]

顔の見える医歯薬連携



宮崎市郡医師会病院

[周術期口腔機能管理]



いきめの杜 会営薬局

[院外処方とお薬の相談]

当センターのドクター勤務配置

治療医+歯科麻酔医+aがあって初めて安定した運営が可能となった

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
治療医	 4人    	 2人  	2人  	 2人  	 3人   	 3人   
歯科麻酔医	 2人  	 3人   	 2人  	 3人   	 1人 	-
診療内容	全麻・鎮静 外来	全麻・鎮静 外来・往診	鎮静 外来	鎮静 外来	鎮静 外来	外来 摂食嚥下

…全麻・鎮静下治療担当

…全麻・鎮静下治療担当

…鹿児島大学歯科麻酔科派遣医

…外来担当

…外来担当

…鹿児島大学小児歯科派遣医

常勤歯科医師

非常勤歯科医師

常勤歯科医師

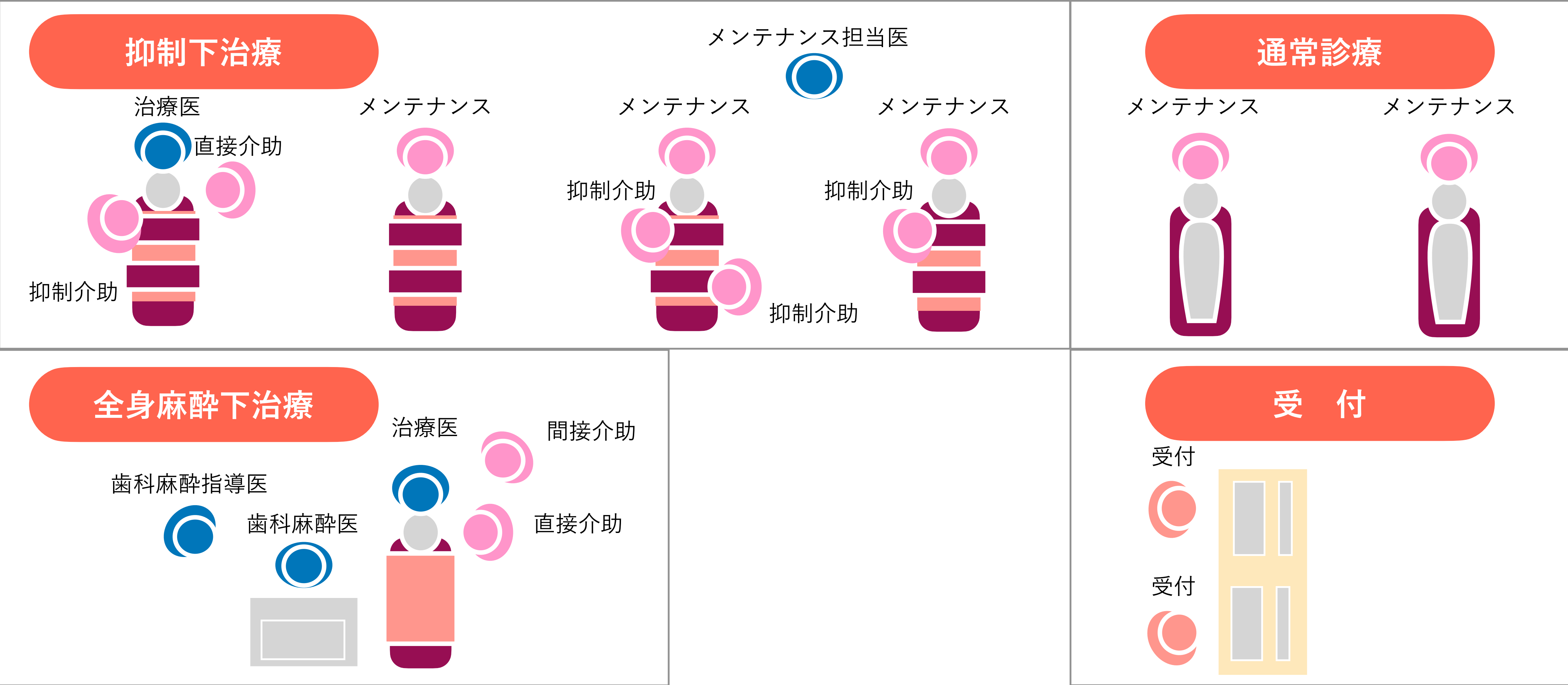
非常勤歯科医師

 +  …全麻・鎮静下治療可能

のみ…鎮静下口腔ケアのみ実施

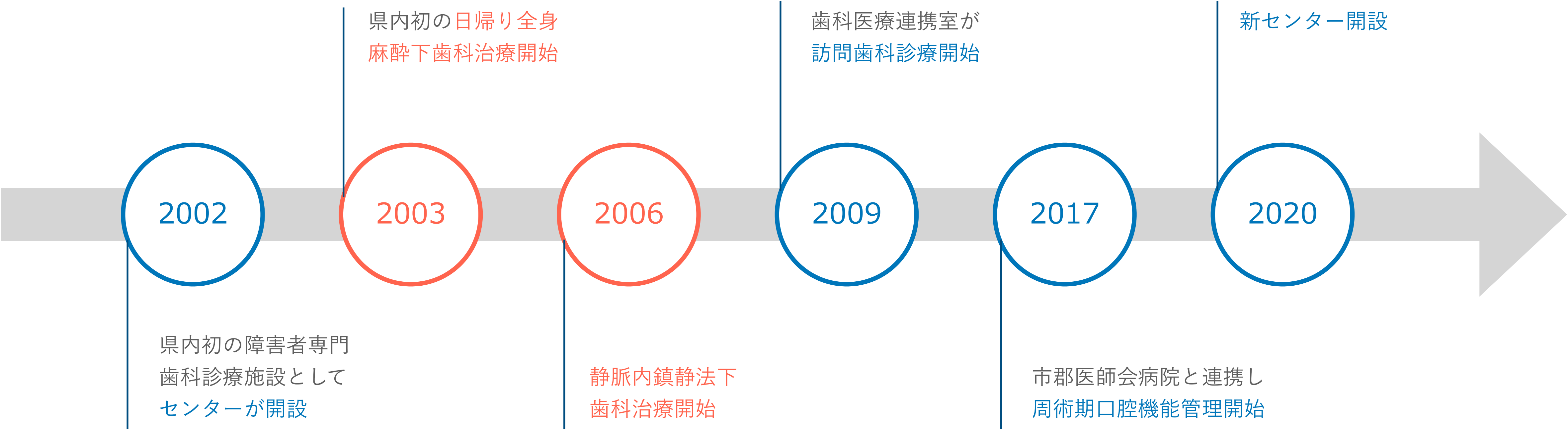
センターでの障害者歯科診療の人員配置

障害児者の診療には通常よりも時間と人手がかかる



診療システムの構築

新しいことを始めるには人材が必要、大学や他医療機関との協力連携が必要であった



宮崎大学医学部麻酔科

九州大学
九州大学歯学部歯科麻酔科

[麻酔医・小児歯科医派遣協力]

鹿児島大学小児歯科・歯科麻酔科

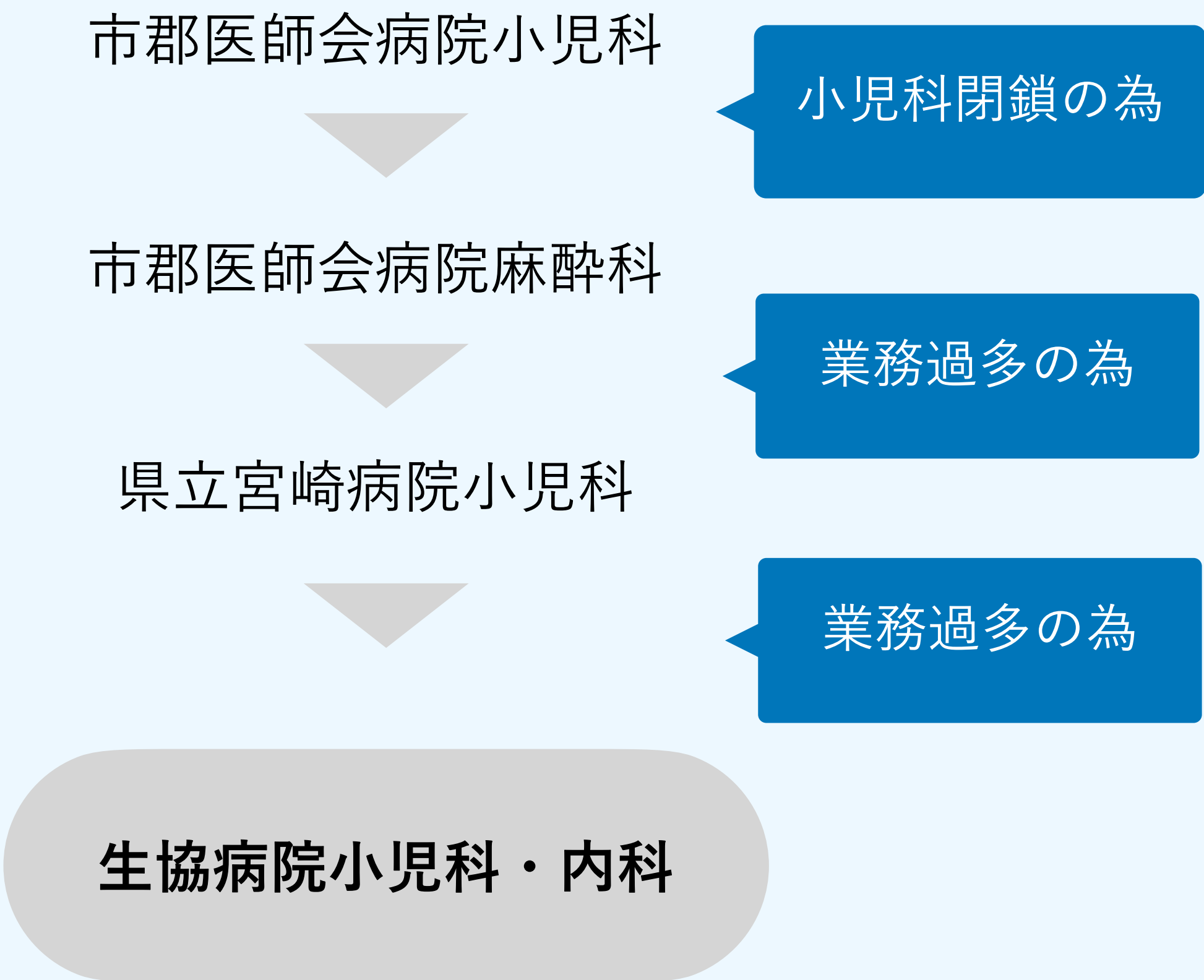
[術前診察依頼]

宮崎生協病院小児科・内科

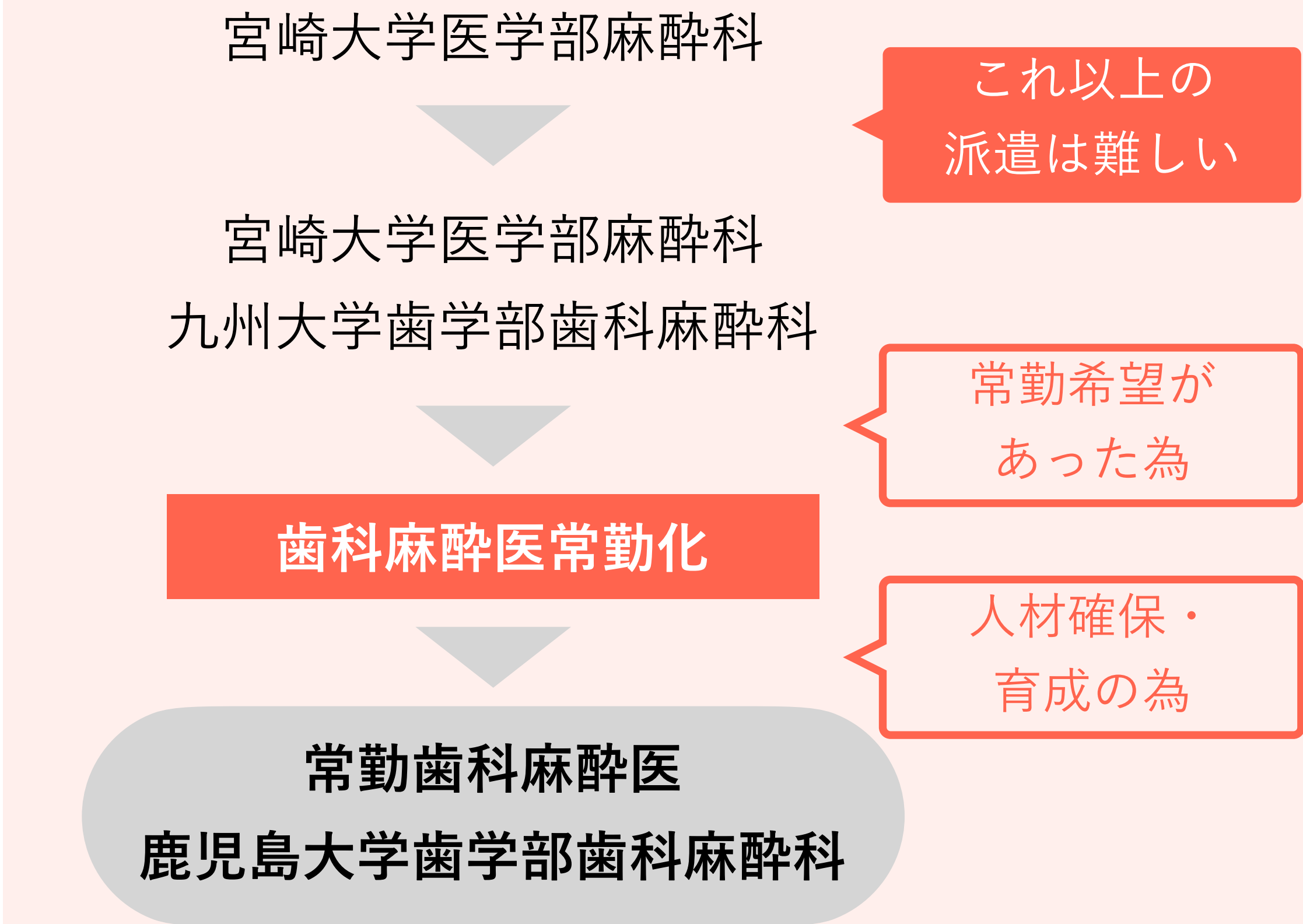
日帰り全麻システムの構築

協力医療機関の事情で既存のシステムは変えていく必要がある

術前診察担当医療機関の確保

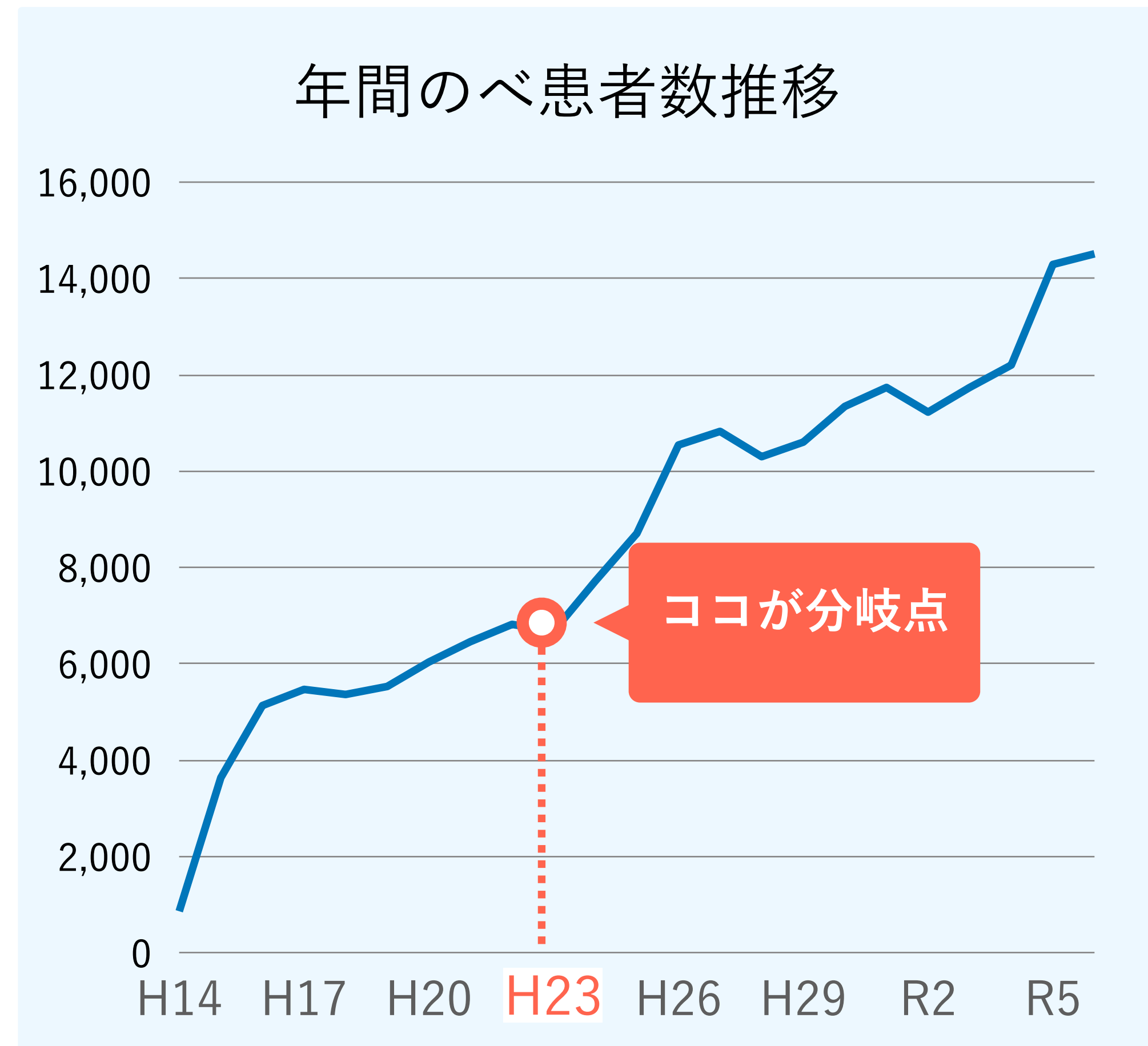


麻酔医の確保



センターで歯科麻酔医を常勤化するために

非常勤から常勤化するにはある程度の経営規模と環境整備が必要である



仕事のニーズ

- 週1回の全麻
- 1日1例の鎮静
- 往診・周術期

仕事環境

- 治療医の存在
- 補助スタッフ
- 緊急時医療体制

生活環境

- 給与・賞与
- 福利厚生
- ほぼ残業なし

職場安定性

- 6,000人/年 超
- 年々増加傾向
- 歯科医師会立

Contents

- 01 センターの紹介と現状
- 02 障害者歯科を取り巻く現状
- 03 課題とこれまでの取り組み
- 04 今後の課題
- 05 構成員からの事前質問



次世代へ向けた地域の障害者歯科医療体制の課題

限られた人材と資源を効率的に活用するために行政のサポートが不可欠です

インクルーシブ社会の実現

- 一般歯科医師の障害者診療対応力向上を図る
- 研修に障害者歯科への関心を高める内容を組み込む
- 発達障害や認知症など増加する患者層への対応教育

人材確保と養成

- 障害者歯科は小児中心から成人・高齢者対応が必要
- 摂食嚥下含む幅広い領域に対応できる総合歯科医の養成
- 九州各センターはドクターと歯科衛生士不足の課題を共有
- 麻酔医雇用は初期投資と補助が必要

地域拠点病院との連携

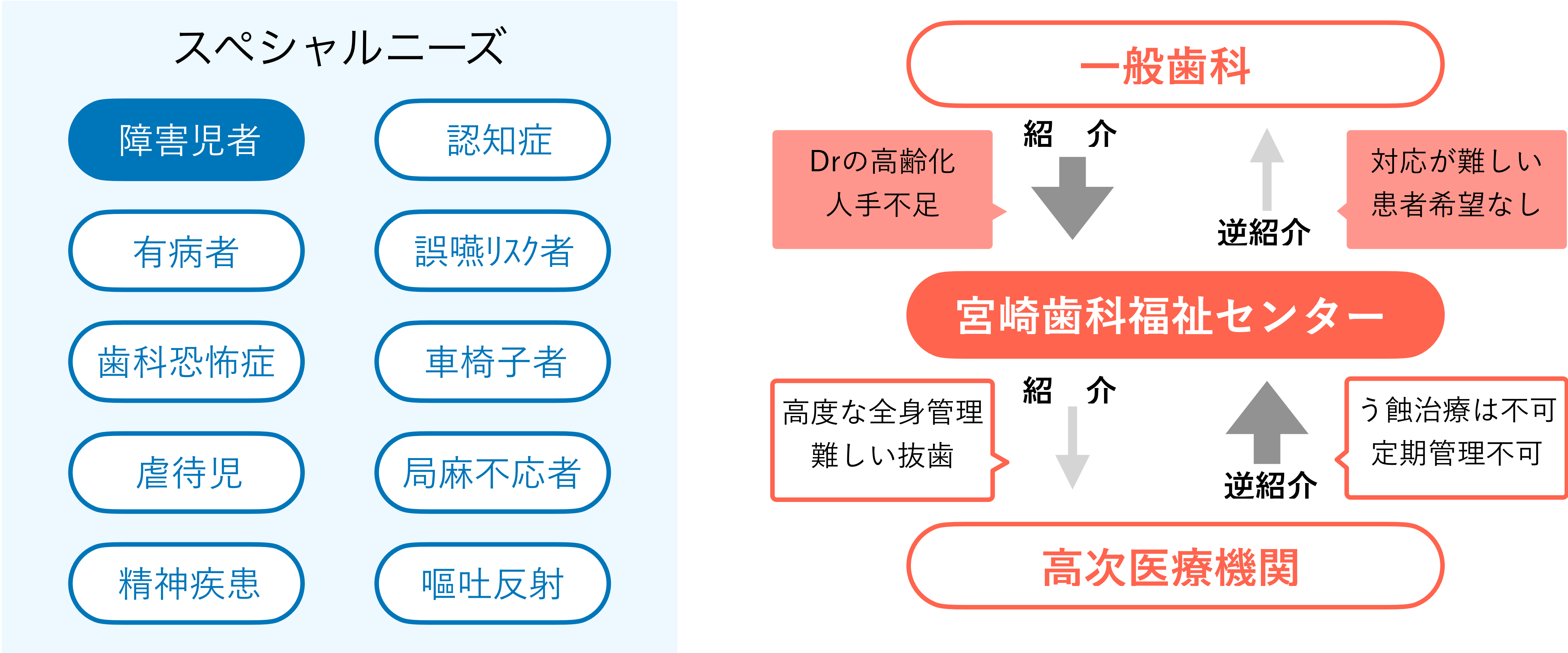
- 地域に小規模拠点を設け、センター医師が出向診療を行う
- 1時間以内に通院可能な拠点病院を整備
- オープンシステム導入で協力医増と連携促進

医療資源の偏在と将来像

- 人口・歯科医師減少で医療の質維持が困難
- 医療資源偏在への対応
- C8活用で医療人材を広域共有
- 将来の歯科医療体制のビジョンを明確化

歯科的弱者がセンターに集中する状況

障害者の範囲の拡大→スペシャルニーズへの対応が求められる



地域に拠点病院を確保するための研修制度

参加者が特定したり、減少傾向のため新たな研修制度や教育システムが必要

	参加者	場 所	研修内容
現 在 [集合型]	各地区歯科医師会が2名推薦 推薦者の歯科医院スタッフ	宮崎県歯科医師会研修室 宮崎歯科福祉センター	障害者歯科関連の講演 × 2回 センター診療見学 × 2回
	 参加者減少	 移動負担大	 マンネリ化
今 後 [出向型]	出向先の歯科医師会会員 全ての歯科医師会会員 会員歯科医院スタッフ	各地区の歯科医師会研修室 Web配信 各地区の拠点歯科医院	障害者歯科関連の出向講演 センター診療見学 地域拠点医院に個別見学指導

人材確保と教育・育成について

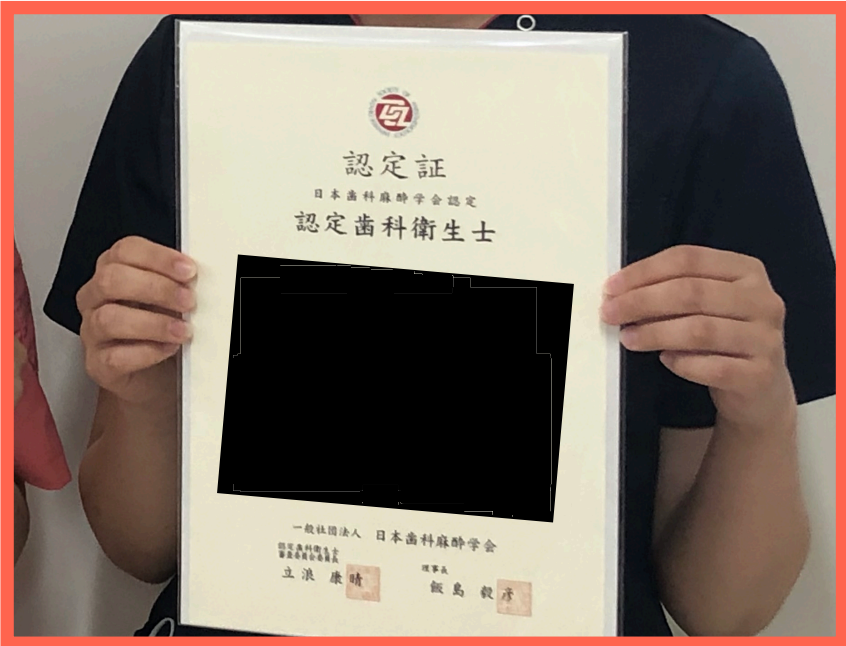
人材不足に加えて、教育・育成に時間がかかる

教育育成
3年



新人

- 新人研修
- ローテーション研修
- 診療部長との勉強会



新任 (2~3年目)

- 新人サポート
- スキルアップ研修
- 認定衛生士資格取得
- 学生実習担当



中堅

- 新人教育委員会
- 各種委員会委員長
- 新人教育指導
- チーフサポート



管理

- チーフ会で教育報告
- チーフ業務
- 管理者研修
- 院外講演会

「C8」の活用で地域医療格差をなくす

将来的に人、物、経験、システムを共有し、地域障害者センターの発展をサポートする

C8 | シー・エイト

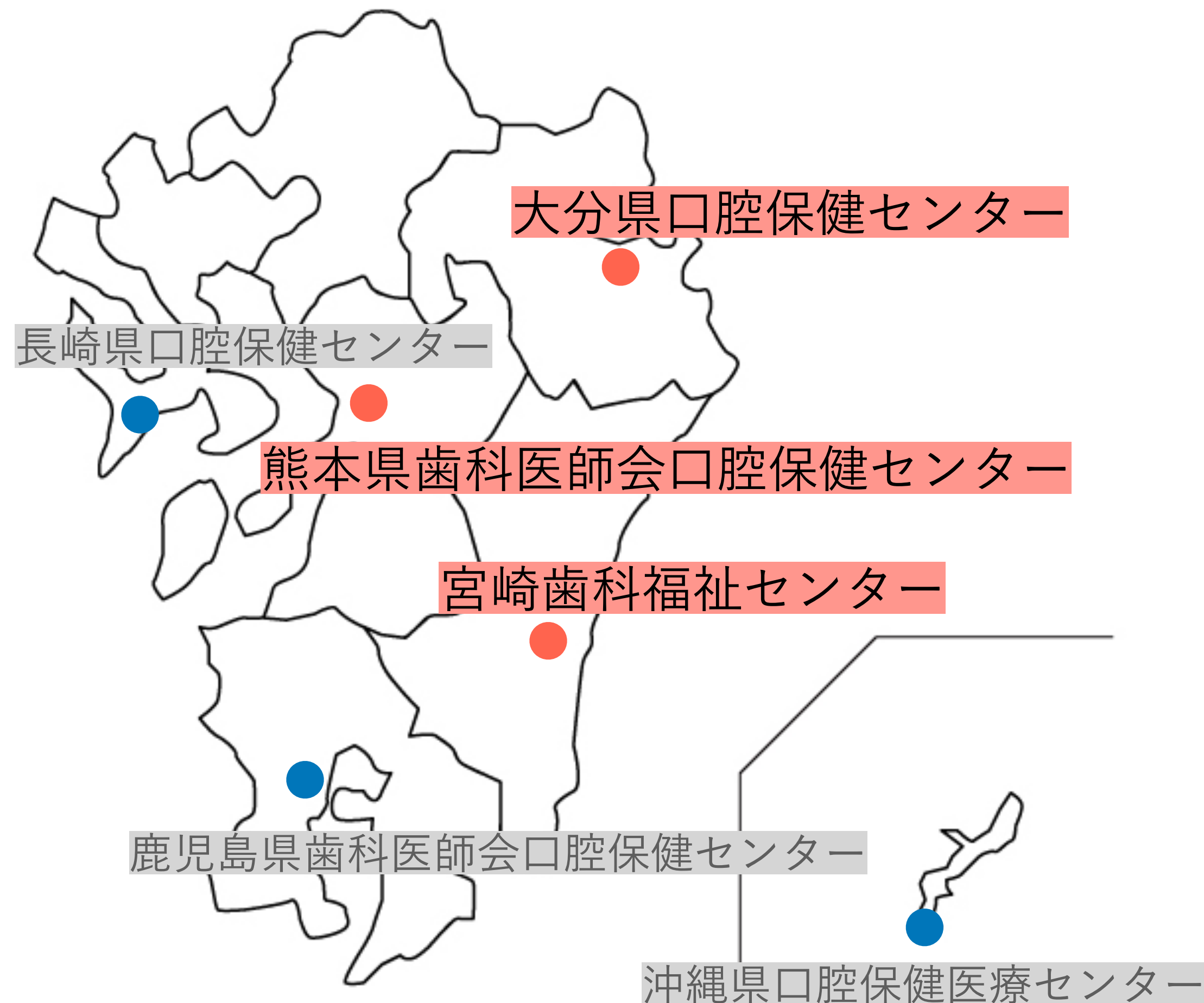
九州8県の障害者歯科医療を行うセンターおよび医療機関をつなぐ連絡協議会

主要メンバー

歯科大学のない大分県・熊本県・宮崎県のセンターが中心となってC8を開催

活動内容

- 年1回のZoom会議
- 障害者歯科学会中のディナーミーティングでスタッフ間交流や意見交換



Contents

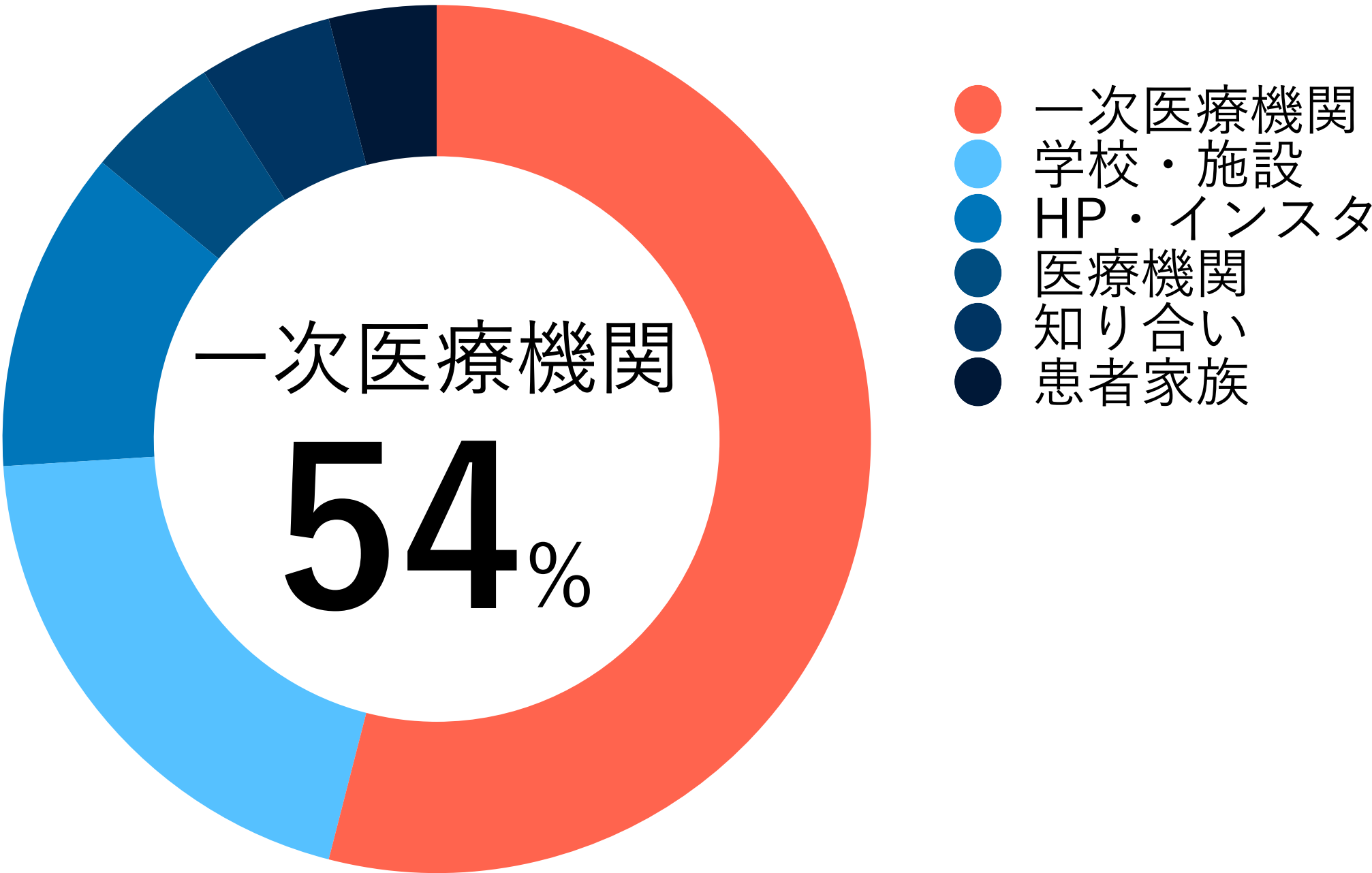
- 01 センターの紹介と現状
- 02 障害者歯科を取り巻く現状
- 03 課題とこれまでの取り組み
- 04 今後の課題
- 05 構成員からの事前質問**



一次医療機関からの患者の紹介率は？

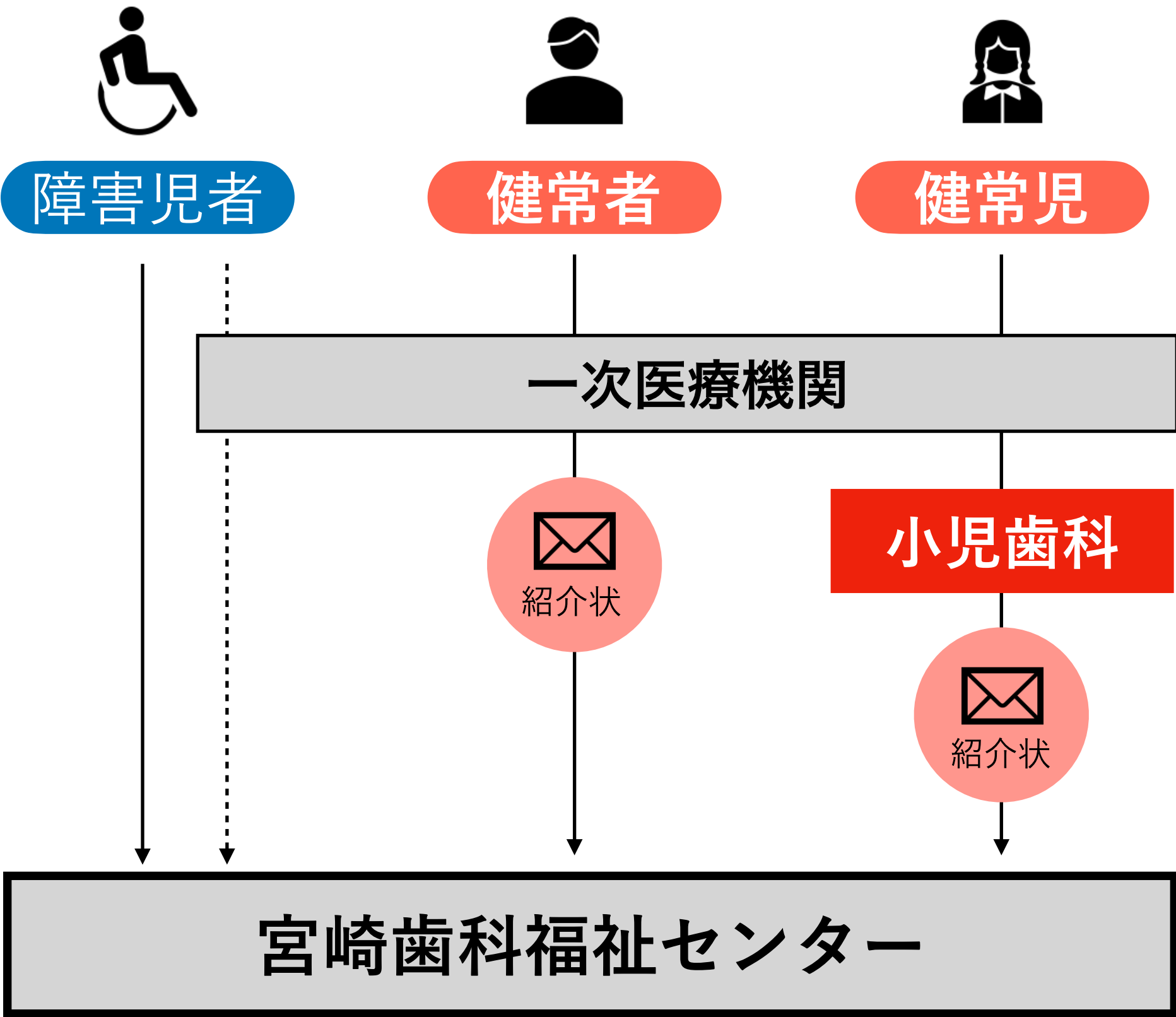
地域からの信頼が広がり、半数以上が一次医療機関からの紹介

当センターを知った経緯



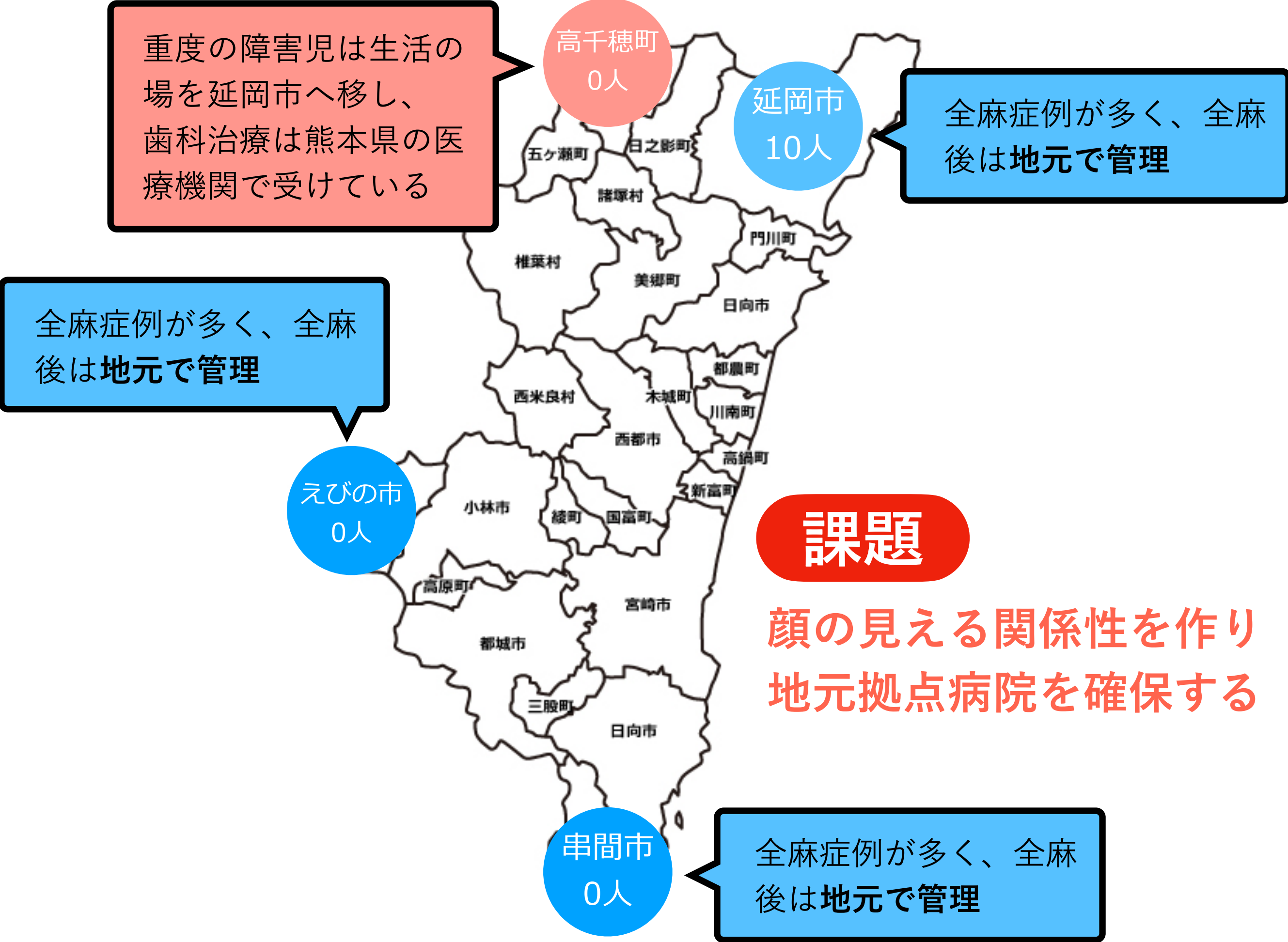
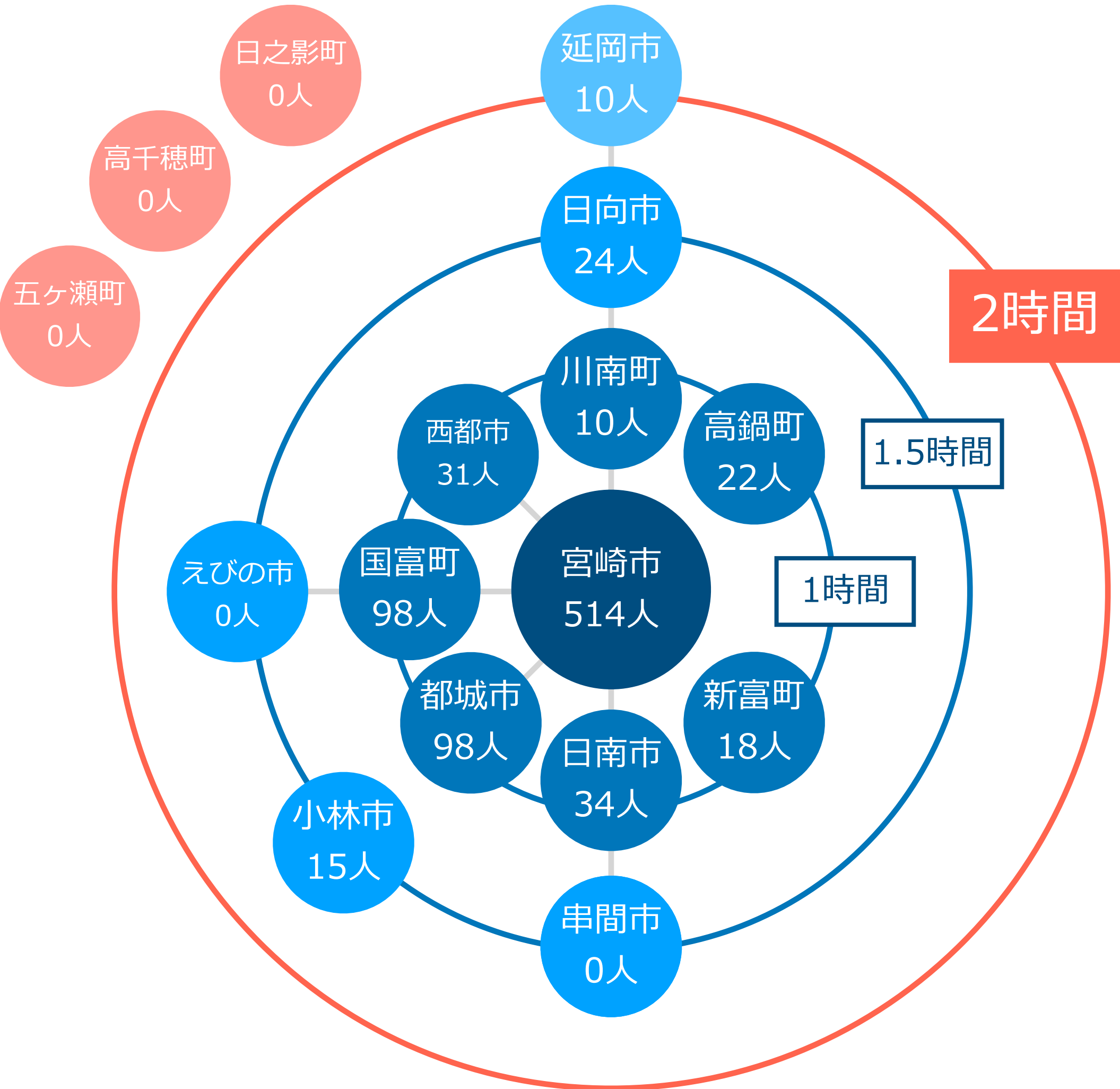
対象：R6.8月～R7.8月に来所した初診患者172名

受診までのながれ



センターの医療提供体制は十分であるか？

2時間以内がセンター通院を可能とする実行的距離



「C8」活動内容は？

将来的に人、物、経験、システムを共有し、地域障害者センターの発展をサポートする

Zoom会議

年1回各県持ち回りでZoom会議開催

参加者：運営歯科医師会関係者、現場スタッフ

内 容：

- 事前アンケートを実施

参加者から事前に質問を収集

- アンケート内容に基づき課題を抽出

現場での問題点や改善点をピックアップ

- 質疑応答形式で意見交換

具体的な事例をもとに活発なディスカッションを実施

C8 ミーティング

障害者歯科学会中にスタッフ間交流

参加者：各県センターの現場スタッフ

内 容：食事をしながら自由討論

- 本音で語れる場の提供

運営側を外すことで、現場の声や悩みを率直に共有

- 情報交換と相互支援

各センターが抱える課題や工夫を共有し合い、連携を強化

- 心を通わせる時間

同じ志をもつ仲間同士が、温かく楽しい雰囲気の中で交流



すべての人に
やさしい未来の歯科医療を届けたい

ご清聴ありがとうございました

